

松江市立鹿島歴史民俗資料館だより

No.32

2022年8月発行

■ 企画展「狭田国開発史」展開催中！

現在、開催している「狭田国開発史」から展示品を紹介します。

右の写真は、稗田遺跡から出土した古墳時代後期の「杵付大足」です。杵付大足（わくつきおおあし）は板状の田下駄の下に杵を取り付けたもので、各地で出土しています。近代まで使われた民俗資料にもあり、田に肥料として稲わらや草を踏み込む際に用いていました。2枚で一对で、中央の板に片足を載せ、杵の四隅にひもをかけ手でバランスをとったようです。子供の頃に遊んだ缶ポックリの超大型版といったところでしょうか。

展示資料の大きさは、長さが約100cm、横が推定40センチ前後です。こんな大きなものを両足に装着するとは、使い手はかなりの長身長だったのでしょうか!?

企画展「狭田国開発史」の会期は10月9日（日）までです。



■ 小学生の見学と町内遺跡巡り

今年も鹿島町内の小学6年生が資料館の見学に来てくれました。

6月23日は佐太小学校の6年生、6月29日は鹿島東小学校の6年生。資料館の見学と合わせて、マイクロバスを使って鹿島町内の遺跡を2時間かけてめぐりました。教科書で歴史を学び始めた子供たちは「鹿島町にもこんな遺跡や古墳があったなんて！」とびっくりでした。

■ 『魯迅手稿全集』

北京の中国国家図書館出版社の方からメールが届いたのは3年前の2019年3月でした。魯迅の手稿全集を出版する予定なので、当館が所蔵する魯迅から増田渉にあてた手紙全部と書軸の写真を提供してもらいたいとのことでした。中国国家図書館は中国で唯一の国立図書館です。その年の4月には北京の担当者が写真掲載の申請書を当館まで持参され、同年6月に魯迅の書軸、手紙、封筒のすべての写真を送りました。

そして、このほど『魯迅手稿全集』全78冊のうち、当館提供の写真を掲載した書籍が届きました。この「書信編8(至外国人士 附録)」(全435P)は、魯迅が島根県八束郡恵曇村に住む増田渉に送った手紙が8割方を占め、書軸、手紙58通と封筒のすべてがカラーの原寸大で掲載される貴重なものです。

